

《埼玉協同病院だより》

ふれあい

2012年 No.297

発行：埼玉協同病院
〒333-0831 川口市木曽呂1317
Tel.048-296-4771
Fax.048-296-7182

7

おもな記事●職種紹介～認定患者シリーズ②/
「いのちの授業」/高校生一日医師体験
健康マメ知識/虹の投書箱だより/連絡バス時刻表

呼吸器科 紹介

常勤医師3名で病棟・外来診療 近隣病院と連携し健康守る一翼に

埼玉県は人口10万人対医師数が全国最低で、呼吸器科専門医の数も、同じ東京のベッドタウンである神奈川や千葉よりも少ないのが現状です。当院のある東浦和駅周辺地域でも、呼吸器を専門とする医師の数は少なく、皆さんの要請に十分に答えられていないというのが現状かもしれません。

その中で当院呼吸器科は常勤医師3名により病棟・外来診療を行っています。気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患、気管支拡張症、排菌のない肺結核あるいは非結核性抗酸菌症などの疾患を取り扱っています。近年増加傾向である肺癌についても診療を行っています。呼吸器外科医師の着任により、診断と手術・抗がん剤治療を当院で一括して行うことができるようになりました。当院では行うことのできない放射線治療については、近隣の病院と連携して診療にあたっています。

それらの治療を確実に行うためにも検査は重要です。当院ではCTや2台のMRIを所有し、放射線科医とともに画像診断を行っています。また、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患といった気道（空気の通り道）疾患の診断に必要な肺機能検査も行っています。皆さんには聞き慣れない

気管支鏡検査も当院では年間に100件以上行っています。

気管支鏡検査というのは、いわば肺のカメラの検査です。肺の中から細胞や細菌を直接検出するために行う大変有用な検査です。また、肺と肋骨の間をカメラで見る胸腔鏡という検査も行っており、胸に水がたまってしまふ病気などの確定診断を行うために威力を発揮します。

医師だけではなく、他の病院スタッフとも協力して治療を行っています。ことに、芸能人がテレビで訴えていた慢性閉塞性肺疾患は実は全身性の疾患であり、放っておけば骨粗鬆症や人によってはうつ病になることもあります。治療には医師の診察だけではなく、看護師による禁煙指導、薬剤師による吸入薬指導、栄養士の食



呼吸器科の常勤医師

事療法、リハビリスタッフによる呼吸リハビリテーションなどさまざまな職種の関わりが必要不可欠です。

今後は連携の輪を周囲の病院・診療所にもどんどん広げ、当院周辺地域の皆さんの健康を守る一翼を担っていきたいと思います。

(呼吸器科科長 原澤慶次)

法人合併20周年記念サマー増資にご協力をお願いします!!

医療生協さいたまでは、毎年7月・8月を「サマー増資月間」として、増資のお願いキャンペーンを行っています。

地域の皆さんをはじめ組合員さんに支えられて、医療生協さいたまは今年で合併20周年を迎えることができました。埼玉協同病院は法人のセンター病院として、幅広く、より高度な医療機能の拡充に努め、先進医療機器の購入や手術への対応力強化を進めてきました。特に、2010年度には手術棟であるF館の増築、2011年度には新たなMRIの導入と、着実に医療設備を整えてきました。その結果として、救急車の受け入れ台数は年々増加し

ています。更に今年度は新たにマンモグラフィを追加購入し、婦人科健診などへの対応力も強化しております。

今後も、患者様と職員がともに育ちあう医療組織として、地域の中で求められる医療体制を確保する資源として出資金を活かしたいと思っております。

期間中は、院内生協コーナーや外来・病棟・地域において増資封筒をお配りしています。組合員が「出資して、意見を出して、育てながら利用する」医療生協の病院づくりに、ぜひご参加、ご協力をお願いします。

(地域活動委員会)



7月2日から稼働予定のマンモグラフィ

